

病害虫発生予察注意報第 1 号

佐賀県

作物名：タマネギ（中生・晩生品種）
病害虫名：べと病

1) 注意報の内容

発生地域：県内全域
発生量：平年より多い

2) 注意報発令の根拠

- (1)3月17日に実施した巡回調査において、べと病の発生は越年罹病株のみが認められ、発生株率は 0.5%（平年 0.3%、前年 0.2%）、発生圃場率は 62.5%（平年 27.3%、前年 56.3%）であり、越年罹病株の発生株率、発生圃場率ともここ 10 年の中で最も高い（図 1、表 1、写真 1）。
- (2)多くの越年罹病株では、伝染源となる分生子の形成が認められている（写真 2）。
- (3)県内の一部では、越年罹病株から伝染した二次感染株が認められる圃場がある（写真 3、4）。
- (4)4月1日に福岡管区气象台より発表された九州北部地方週間天気予報によると4月2日から4月8日まで向こう一週間は、前線や湿った気流の影響で曇りや雨となる日が多い見込みである。また、最高気温、最低気温はともに、期間の中頃にかけては平年より高く、本病の発生に好適であり、二次感染株が急激に増加することが予想される。

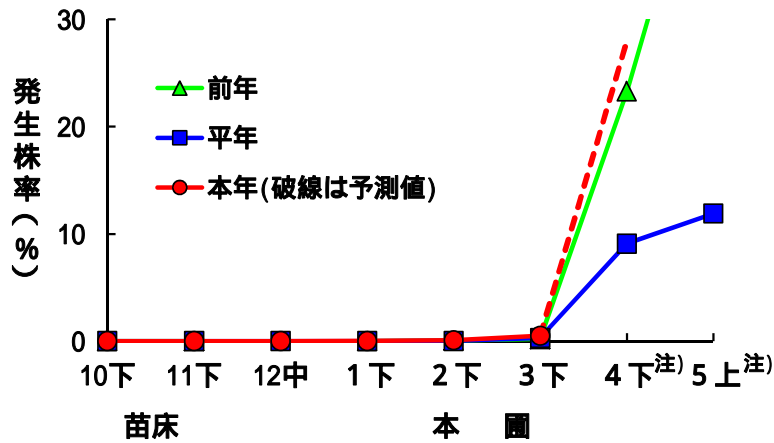


図1 巡回調査におけるタマネギべと病の発生推移

注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

表 1 タマネギ巡回調査におけるべと病の越年罹病株の発生状況(各圃場2,000株調査)

調査年月日	各調査圃場(a~p)におけるべと病の発生株率 (%)															
	マルチ被覆(早生)圃場								露地(中・晩生)圃場							
	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p
平成27年1月26日	0.10	0	0	0	0	0	0	0	0.05	0	0	0	0	0	0	0
平成27年2月4日	0.30	0.05	0	0	0	0	0	0	0.05	0.25	0.25	0	0	0	0	0
平成27年2月18日	0.40	0.05	0.25	0	0	0	0	0	0.35	0.25	0.25	0.10	0	0	0	0
平成27年3月5日	1.00	0.10	0.15	0	0	0	0	0	0.65	1.15	0.30	0.15	0.30	0	0	0
平成27年3月23日	1.10	0.30	0.25	0	0	0	0	0	1.45	2.00	1.10	0.30	1.35	0.25	0.05	0

注)1月26日から3月23日は、それぞれ同一圃場(a~p)を調査

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場を経時的に観察し、越年罹病株を抜き取って圃場外へ持ち出して埋めるか、ビニル袋等で密閉するなどして確実に処分する。
- (2) 二次感染株の発生初期から薬剤散布を徹底する。また、薬剤散布後においても、曇雨天が続くと新たな病斑を形成することがあるので、このような場合は追加防除を実施する。
- (3) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (4) 早生タマネギで早期に発生したべと病が、周辺の中生・晩生タマネギの伝染源となるため、中生・晩生品種の一斉防除等に地域全体で取り組む。
- (5) 薬剤防除に当たっては、農薬使用基準（収穫前日数等）を遵守する。



写真 1 露地タマネギに発生したべと病越年罹病株(平成 27 年 3 月 27 日撮影)



写真 2 分生子を形成したべと病越年罹病株
(平成 27 年 3 月 23 日撮影)



写真 3 葉身上に形成された二次病斑
(平成 27 年 3 月 31 日撮影)



写真 4 二次病斑上に形成された分生子
(平成 27 年 3 月 31 日撮影)